

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	福田 弥夫		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 3		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（D P）との関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができるようになる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができるようになる。 D P 3－G〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができるようになる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができるようになる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕 集团的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようになる。 D P 8－M〔省察力〕 知識と経験と関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができるようになる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発(5%) C1 倫理的思考・社会認識(5%) E1 学識と専門技能(10%) F1 探究と論拠(20%) F2 課題解決(10%) H1 倫理的思考(10%) I1 理解・分析と読解(10%) K1 ライティング・コミュニケーション(10%) K2 オーラル・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(5%) M1 総合的・応用的学修(5%)		
教員の実務経験	金融庁「自賠責保険審議会」委員を平成 1 7 年から 1 0 年間、国土交通省「今後の自動車損害賠償保障制度のあり方に係る懇談会」委員を平成 1 8 年から現在まで務めるなど、日本の自賠責保険制度の制度改正や法改正の作業にこれまで携わってきました。また、生命保険会社や損害保険会社の支払審査委員会委員やアドバイザリーボードなども務めています。さらに、平成 1 4 年からは自賠責保険・共済紛争処理機構の評議員を務め、交通事故の紛争処理にもかかわってきました。その他にも、全国共済農業協同組合連合会の掛け金率及び約款審議会委員なども務めており、理論的面はもちろんのこと、これまでの立法作業や約款改訂作業への関与、さらには具体的な保険をめぐる紛争処理への参加の経験などを踏まえ、これらの実務経験を考慮		

	に入れた講義を展開します。特に2回目の授業において、実務との関連性を重視した授業を展開します。	
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 完成期	
科目概要・キーワード	■危機管理において重要な役割を果たしている保険の役割を専門的に研究・実践するために必要な手法を学び、学生自らが個人のテーマを設定し、研究論文を執筆するまでの指導を行う。 学生自らが危機管理に関する問題点を発見し、仮説を構築し、自分の力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養うことを目的とします。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につなげる個人の研究テーマを決定する前段階として、グループワークを中心として東京学生保険学ゼミナールやRISでの研究報告のための学習をします。授業形態は講義型式によって行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業(オンデマンド型)を取り入れます。 ■キーワード 保険契約 リスク抽出 リスクヘッジ リスクファイナンス リスクマネジメント	
授業の趣旨	■副題 危機管理における保険・リスクファイナンスの研究 ■授業の目的 このゼミナールでは、危機管理と保険及びリスクファイナンスに関する諸問題の中から、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文をまとめるための指導を行います。東京学生保険学ゼミナールやRISの全国大会へ参加し、保険に関する研究発表を行うことを主眼として、各人の研究テーマに加え、ゼミナールの全員が共同で研究を行い、危機管理における保険とリスクファイナンスの課題を学びます。 ■授業のポイント 私たちの周りにはいろいろなリスクが存在していますが、その中で保険によるリスクヘッジが可能なものを洗い出し、それに対応する保険制度の問題点と課題を抽出し、危機管理における保険とリスクファイナンスのあるべき姿を模索します。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができるようになる。 ■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を研究発表の形で公表し、適切に表現することができるようになる。	
成績評価方法	■授業におけるプレゼンテーション（電子掲示板等を利用）2回(60%)：適用ルーブリック E1,I1,K1,K2,M1 （評価の観点） レジュメの内容(必要な事項が盛り込まれているか、分かりやすいレジュメとなっているか、論点の不足はないか)、プレゼンテーションの論理構成（指示された内容について明確な論理構成に基づく報告となっているか）、プレゼンテーションの手法（聞き手に分かりやすい話し方となっているか）などについて評価します。 （フィードバックの方法） レジュメの作成・提出、プレゼンテーションの準備・発表の各過程において、随時コメントします。 ■授業参加度 毎回(40%)：適用ルーブリック B1,C1,E1,G1,I1,K2,L1,M1 （評価の観点） 他者の報告に対する自らの疑問やその考察など、積極的な発言をしているか、他社から示された意見や疑問に対して、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への積極的な参加について評価します。 （フィードバックの方法） 演習の実施過程において、随時コメントします。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方の説明)、イントロダクション ②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の進め方と目的、到達目標、成績評価について説明を行う。(イントロダクション) 東京学生保険学ゼミナールとRISにおける研究発表へ向けての研究手法(E1,M1)、研究発表の進め方・原稿の作成方法(B1,K1,L1)B1 ③予習(120分) 東京学生保険学ゼミナールとRISにおける報告について自分の役割を確認する。

	④復習(120分) ゼミナールⅡの概要と到達目標を確認し、東京保険学ゼミナールとRISにおける報告へ向けた学習について確認する。
2	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告 ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(1) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) 担当教員の実務経験を踏まえて、実践的で社会的関心の高いテーマの選定を指導します。 ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
3	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(2) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(2) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
4	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(3) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(3) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
5	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(4) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(4) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
6	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(5) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(5) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
7	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(6) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(6) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
8	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(7) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグ

	ループ別報告(7) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
9	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(8) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(8) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
10	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(9) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(9) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
11	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISに向けてのグループ報告(10) ②東京学生保険学ゼミナール年次大会とRIS全国大会における報告テーマについてのグループ別報告(10) (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
12	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールにおける報告のレビュー ②東京学生保険学ゼミナール年次大会における報告について、全員でディスカッションを通してレビューを行う。(B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1) ③予習(120分) 東京学生保険学ゼミナールでの報告につき、各自が反省点を考える。 ④復習 東京学生保険学ゼミナールの報告で課題として指摘された点をまとめる。
13	①授業テーマ RIS全国大会における報告の研究 ②授業概要 RIS全国大会での報告に向け、報告内容についてディスカッションを行い、最終原稿を完成させる (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 各グループのテーマにつき、各人が報告準備を行う ④復習 今回RIS全国大会報告原稿の完成に向けて、どのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。 ③予習(120分) 第12回での復習をもとに、RIS全国大会での報告の準備を行う。 ④復習 今回発表した各グループの報告についてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認する。
14	①授業テーマ RIS全国大会における報告のレビュー ②授業概要 ②RIS全国大会における報告について、全員でディスカッションを通してレビューを行う。(B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)

	③予習(120分) RIS全国大会での報告につき、各自が反省点を考える。 ④復習 RIS全国大会の報告で課題として指摘された点をまとめる。
15	①授業テーマ 授業のまとめ ②ゼミナールⅡでの反省点やゼミナールⅢへの進展、卒業論文の作成に向けてディスカッションを行う（B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1）。 ③予習(120分) ゼミナールにおけるディスカッションを振り返り、自分の成長について考えると同時に、ゼミナールへの貢献についても考える。 ④復習(120分) ゼミナールⅢに向けての課題をまとめて整理する。
関連科目	「ゼミナールⅢ～Ⅳ」。講義科目については、危機管理学概論Ⅰ（RMGT1301）、生活安全と法（RMGT1401）、民事法Ⅱ（RMGT2342）、災害と法（RMGT3401）、事故責任法制（RMGT3402）、復旧・復興論（RMGT3511）などと関連します。
教科書	随時資料を指示します。
参考書・参考URL	必要に応じて指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 水曜日の5時限 それ以外については、メール等でアポイントメントを取ること。研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント45% パブリックセキュリティー 15% グローバルセキュリティー 15% 情報セキュリティー 25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学30% 法学70%

